在家中だより

No. ４６５　令和６年３月１日(金)

川口市立在家中学校　川口市大字安行領在家２７２番地
０４８（２９５）４１０２　FAX ０４８（２９５）５６６１
URL　https://zaike-j-kawaguchi-saitama.edumap.jp/

・心身ともにたくましい生徒
・自ら進んで学ぶ生徒
・豊かな情操を培う生徒

「夢」の叶え方

校長　鈴木　玲

２月１６日（金）に総合的な学習の時間の進路学習として「夢をあきらめない」というテーマで講演をしていただきました。講師としてお迎えしたのは、元サッカー日本代表の ラモス瑠偉 氏です。

ラモス氏はとても気さくで明るく、温かい雰囲気の方でした。現役時代を知っている我々世代がもつ『闘将』というイメージは、微塵も感じられません。講演の前、校長室では、本人を目の前にして浦和レッズファンを公言した不躾な私に対しても笑顔で、当時の貴重な話をたくさん聞かせてくれました。読売クラブ時代のこと、Ｊリーグ発足当初のこと、ヴェルディから京都へ移籍した時のこと……。コアなサッカーファンでもなかなか知らないであろうことをご本人の口から聞くことができました。短い時間ではありましたが、私個人としては校長室で既に〈お腹いっぱい〉大満足です。

さて、校長の余談が長くなりましたが、本題の講演会もブラジルで過ごした少年期・青年期の話から始まり、サッカーとどのように向き合ってきたのか、その過程で人々とどのように関わってきたのかなど、ラモス氏のサッカー人生をもとに、私たちが生きる上で大切にしなければいけないことを数多く示唆してくださる、とても貴重なお話でした。

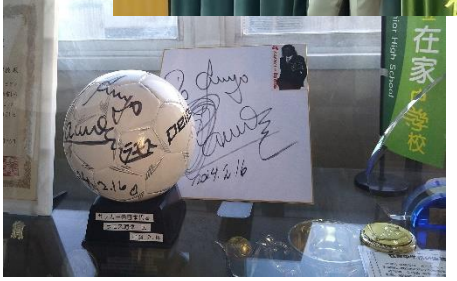
「まじめにやっていたら、仲間が手伝ってくれる。」ラモス氏自身がブラジルの草サッカーチームの大会にミスでエントリーされていなかった時、また、日本リーグ時代に１年間の出場停止処分を受けた時など、様々な苦境に直面してもあきらめずに準備（＝自分のやるべきこと）を続けた結果、いつも仲間や家族が力を貸して助けてくれたというエピソードを紹介してくれました。しかし、ただただまじめにあきらめず努力を重ねればいいわけではありません。「思いやりをもって、人を大切にする。家族を大切にする」ラモス氏は何度も繰り返し、こうおっしゃっていました。

第４０期生はあと２週間ほどで卒業証書授与式を迎えます。これまで、３年生とは「中学校卒業後の目標」や「将来の夢」について話す機会が何度もありました。自分の進む道について語る３年生の瞳や声からは大きな期待と少しの不安が感じとれます。

新しい一歩を踏み出す時には、誰にでも必ず不安が付いて回るものです。その不安を「やれそうだ」という勇気に変えてくれる言葉がラモス氏の講演の中にありました。

一人で乗り越えられなかったら、人と協力すればいい。

小学校からの９年間。中でも義務教育の集大成である中学校の３年間で、第４０期生のみなさんは授業を通して知識・技能を身に付けただけでなく、行事や部活動などで、困った時に手を差し伸べてくれる仲間づくりをしてきたはずです。これからの人生、何ごともあきらめず、時には在家中の仲間の力を頼りにしながら、一つずつ一つずつ成功を積み重ね、どんな苦難も乗り越えていってください。



最後に、ラモス氏は校長室を出る間際にこんな一言もおっしゃっていました。「ドーハがあったから今がある」。つらく悔しい経験の先にあるもの。あの時のラモス氏の思いを察することは到底できないと思いますが、「ドーハがあったから今がある」　全くもって同感です。